

「都市の緑3表彰」の受賞者決定について

一般財団法人第一生命財団(理事長:渡邊光一郎、以下「当財団」)が支援する「都市の緑3表彰」(緑の環境プラン大賞、緑の都市賞、屋上・壁面緑化技術コンクール)の受賞者が別紙のとおり決定しました。

1. 第34回「緑の環境プラン大賞」

(主催:公益財団法人都市緑化機構、一般財団法人第一生命財団)

緑豊かな都市環境で育まれる人と自然とのふれあいやコミュニティ醸成等の実現に資する緑化プランについて、優秀作を表彰するとともに、そのプラン実現のために緑化整備費を助成するものです。

2. 第43回「緑の都市賞」

(主催:公益財団法人都市緑化機構、特別協賛:一般財団法人第一生命財団)

緑豊かな都市づくりの推進を目的に、緑を用いた環境の改善、景観の向上、地域社会の活性化等に先進的かつ意欲的に取り組み、良好な成果を挙げている市民団体、企業、地方公共団体等を表彰するものです。

3. 第22回「屋上・壁面緑化技術コンクール」

(主催:公益財団法人都市緑化機構、特別協賛:一般財団法人第一生命財団)

都市環境の改善と豊かな都市生活の実現を目的として、これまで緑化が困難とされてきた屋上、壁面等の特殊空間の緑化に積極的に取り組み、優れた成果を挙げている団体、個人等を表彰するものです。

当財団は、社会貢献取組方針の中心テーマの一つとして掲げる「環境の保全」、さらにはSDGsの目標11(住み続けられるまちづくりを)、目標13(気候変動に具体的な対策を)に資するものとして、都市緑化の推進や景観の向上、地域社会の活性化などと、それらを通じた地域コミュニティの形成等につながる当賞を長年にわたって支援しています。



(別紙1)第34回「緑の環境プラン大賞」審査結果

(別紙2)第43回「緑の都市賞」審査結果

(別紙3)第22回「屋上・壁面緑化技術コンクール」審査結果

第 34 回 緑の環境プラン大賞 審査結果

全国から、シンボル・ガーデン部門 11 点、ポケット・ガーデン部門 26 点、計 37 点の応募があり、次の団体の受賞を決定しました。



■シンボル・ガーデン部門(助成額上限:800 万円/点)

緑の持つヒートアイランド緩和効果、生物多様性保全効果等を取り入れることにより人と自然が共生する都市環境の形成、およびコミュニティの活性化に寄与するアイデアを盛り込んだ地域のシンボリックな緑地プラン


■ポケット・ガーデン部門(助成額上限:100 万円/点)

日常的な花や緑の活動を通して、地域コミュニティの活性化や、保育園・幼稚園、学校、福祉施設等での情操教育、身近な環境の改善等に寄与するアイデアを盛り込んだプラン

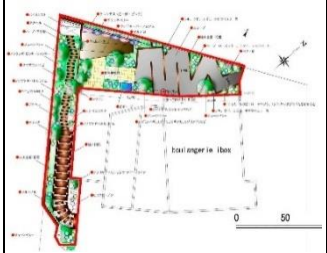
◎国土交通大臣賞 <2 点>

部門	作品名(場所)	受賞者名	概要	
シンボル・ガーデン	やえのさと 八戸ノ里 みんなで育てる森 プロジェクト (大阪府東大阪市)	社会福祉法人 玉美福祉会	高齢者施設のグラウンドを、豊かな緑と触れ合える空間として整備し、近隣に立地する複数の高齢者施設・子ども園とともに地域との交流の場として活用するプラン。子どもから高齢者まで幅広い世代の交流の場としての利用や、生き物との触れ合いや果樹の収穫など多彩な楽しみ方が期待できる点が評価された。	
ポケット・ガーデン	病院を公共の癒しの場に ～花の 40m リハビリロード～ (新潟県新潟市)	新潟医療福祉大学 社会福祉学部 社会福祉学科 原口ゼミ	病院の空き地をメディカルハーブのボーダーガーデンとして生まれ変わらせ、患者のリハビリや地域住民の憩いと交流の場の役割を果たすことを目指すプラン。多くの人に緑と触れ合う機会をもたらすとともに、ガーデンの日常管理を系列福祉施設の入所者が担うことで、多様な人材が活躍できる場の提供につながる点が評価された。	


◎都市緑化機構賞 <1点>

部門	作品名(場所)	受賞者名	概要	
シンボル・ガーデン	東神楽町複合施設 花の輪「はなのわ」 (北海道上川郡 東神楽町)	北海道東神楽町	同町は以前から「花のまちづくり」に取り組んできており、このほど建設する複合施設についても「花のまち」ならではの施設づくりを目指している。施設の正面に、草花が咲き誇る姿から枯れゆく姿までを美しく見せるナチュラルスティックガーデンを整備するプランで、地域に広く開放され、ボランティア団体と共に維持管理していこうという点等が評価された。	

◎第一生命賞 <1点>

部門	作品名(場所)	受賞者名	概要	
シンボル・ガーデン	ブーランジェリーガーデン (北海道伊達市)	社会福祉法人 タラブ	障がい者就労支援施設であるベーカリーカフェ敷地内に『部屋』をイメージしたガーデンを整備し、施設利用者と来訪する市民が分け隔てなくガーデンを利用し、世代や分野を超えて人々がつながる街づくりを目指すプラン。ガーデンを通じて、誰もが心地よいと思える場所づくりに取り組んでいこうとする点が評価された。	

◎第一生命財団賞 <1点>

部門	作品名(場所)	受賞者名	概要	
ポケット・ガーデン	福祉のまちの エディブルランドスケープ <緑・農の共同管理が 生み出すかわりしろ> (東京都世田谷区)	特定非営利 活動法人 子育て支援 グループ amigo	発達支援を必要とする子どもと保護者の立ち寄り場所、および不登校の状態にある学齢期児童の居場所機能を持つ施設を緑化するプラン。外部空間に設ける「エディブルランドスケープ」によって、緑や食に関する学びの機会を利用者や地域住民に創出するとともに、地域コミュニティ形成への寄与を目指す点が評価された。	

◎コミュニティ大賞 <8点>


部門	作品名(場所)	受賞者名	概要	
ポケット・ガーデン	生き物とつながる 丘の上の小さな宇宙 (宮城県多賀城市)	学校法人 東北外語学園 日本国際学園大学 笠神認定こども園	木々に囲まれた園庭にビオトープを整備し、子どもたちが生命や自然環境の大切さを学ぶ場所となることを目指すプラン。子どもたちがトンボやカエル、メダカなど身近な生き物の観察を通じて考える喜びを共有できる点や、ビオトープの水源として雨水を再利用するなど、環境への配慮が評価された。	
	緑豊かな水辺に 人々が集い 感性を育む 『松の実の庭』 (福島県いわき市)	学校法人 志賀学園 幼保連携型 認定こども園 松の実こども園	子どもたちが四季の移り変わりを感じながら、五感を働かせて活動できる庭を作るプラン。五感それぞれの特色につながる植栽や井戸を利用した水辺を配置し、子どもたちが遊びや収穫体験・調理などを通して地域の方々と触れ合い、感性が育つ場となることを目指している点が評価された。	
	つながりの森 (埼玉県秩父市)	埼玉県立 秩父農工科学 高等学校	使われなくなっていた広場を、高校生のアイデアをもとに活気ある場所へ生まれ変わらせるプラン。近隣のこども園、森を整備する農業高校、土地を所有するお寺、地域住民の四者をつなぐ空間を創出し、郷土愛の醸成や地域活性化、自然保護、歴史文化の継承等を目指している点が評価された。	
	楽しいガーデンづくりで 繋ぐ緑のチェーン (新潟県新潟市)	学校法人 国際総合学園 新潟農業・バイオ 専門学校	県立緑地での地域住民への資材貸出によるミニガーデン作り支援と、来園者による投票コンテストを実施するプラン。出展者には見る人や植物と関わる楽しみを体感できる機会を提供し、来園者は様々な植栽を楽しむ。出展・投票の二つの形で緑化への関心を高め、地域活性化や次世代コミュニティ形成を目的としている点が評価された。	

部門	作品名(場所)	受賞者名	概要	
ポケット・ガーデン	中野おしゃべり ガーデンズ (長野県中野市)	一般社団法人 信州子育て みらいネット	地域福祉や子育て支援の場となる、おしゃべりしに来くなる開かれたガーデンを目指すプラン。併設の発達支援施設を中心として、誰でも立ち寄りやすいよう施設を介さず通り抜けできる通路を設け、付近に利用者が落ち着ける居場所を創出する。地域における多世代間交流の拠点となることが期待される点が評価された。	
	土中環境再生で 京都大宮交通公園を 生態系コリドーに！ (京都府京都市)	EARTHWORKER 合同会社	京都市内の公園の土中環境を再生させ、生態系ネットワークの形成を目指すプラン。自然杭により土中の保水力を高め、木々の生育を促し環境課題改善に繋げる取り組みや、子どもたちへのワークショップによる後継者育成活動、上賀茂神社のフタバアオイの保護・育成取り組みを通じた京都の伝統文化継承への貢献を目指す点も評価された。	
	豊かな感性・感受性を 育む緑の園庭環境づくり (大阪府大阪市)	大阪市立 瓜破北幼稚園	自然との関わりが少ない子どもたちが、豊かな感性を育み、生物多様性保全を担う人材となるための体験の場の創出を目的とするプラン。かつての里山の環境をイメージし、田畑の整備、水辺のビオトープ設置、在来種による原っぱと、広葉樹や果樹の植栽など、人と生きものが共生できる環境を作り出す点が評価された。	
	思い出のガーデン (宮崎県都城市)	学校法人三樟学園 一万城幼稚園	野菜作りや花の植替え、芝敷きや資材の色塗りなど、園児が様々な作業にかかわりながらガーデンを整備するプラン。思い出に残る体験を提供するとともに、草花や生き物の観察から気づきを得る「子ども会議」の推進など、園児に心の成長をもたらすことが期待される取り組みが評価された。	


第 43 回 緑の都市賞 審査結果



全国から、緑の市民協働部門 15 点、緑の事業活動部門 10 点、緑のまちづくり部門 2 点、計 27 点の応募があり、次の団体の受賞を決定しました。(活動助成金:「緑の市民協働部門」のみ 5~20 万円)

◎内閣総理大臣賞<1 点>


部門	作品名(場所)	受賞者名	概要	
緑の事業活動部門	シモキタ園藝部 (東京都世田谷区)	一般社団法人 シモキタ園藝部	小田急線線路跡地の再開発(全長約 1.7km)で創出された「下北線路街」を中心に、植物と人とまちの新しい関係づくりをコンセプトにしたコミュニティ活動。創出された緑地の活用育成管理の他、様々なイベント運営や園藝学校の開催など植物とまちを結ぶ多彩な事業を展開している。ワーカーズコープをモデルとした社会改善事業の新たな取り組みを実践している点が高く評価された。	



◎国土交通大臣賞 <3 点>

部門	作品名(場所)	受賞者名	概要	
緑の市民協働部門	市民の森の維持・ 保全と市民の自然 体験活動 (埼玉県鶴ヶ島市)	特定非営利 活動法人 つるがしま里山 サポートクラブ	鶴ヶ島市が地権者と契約した約 15ha の市民緑地等の管理を通じ、都市環境の保全、地域への環境体験の場を提供する等、20 年の活動を通じ、子ども達の健全な育成について着実な成果をあげている。市内の里山について独自に分析し報告書を取りまとめる等、活動の成果の蓄積や情報発信にも努めている。	


部門	作品名(場所)	受賞者名	概要	
緑の市民協働部門	市民参加型の間伐と木材活用による地域の豊かさの循環 (福岡県糸島市)	NPO 法人 いとなみ	糸島市が所有する杉・ヒノキの市有林で市民参加型の皮むき間伐を行い、その間伐材を地域で活用することで、「森と人、海や暮らしとの繋がり」の普及を目的とした活動。市民、子ども、学生、企業、福祉施設、周辺自治体等とも関係を築き、木工、染めもの等の商品開発や SNS 等を通じた様々な世代に関心を促す働きかけなど、活発な活動が評価された。	
緑の事業活動部門	大日本印刷株式会社 市谷の杜 (東京都新宿区)	大日本印刷株式会社	本社社屋の建替えに伴い、約1万5千㎡の武蔵野の雑木林をイメージした「市谷の杜」を人工地盤上に創出した。緑地創出の計画には専門家を加え、社員も積極的に観察や維持管理を担い植栽管理の課題発見に努めている。長期的な視点で計画されている点、都内一等地で人工地盤上を肥沃な土壌で緑化したという点等が高く評価された。	

◎都市緑化機構会長賞 <3点>



部門	作品名(場所)	受賞者名	概要	
緑の市民協働部門	多くの人が集い 広がるつなげる 里山再生 (茨城県結城市)	結城里山の会	荒廃していた薪炭林(コナラが優占した平地林)の保全再生活動に取組み、子供たちが自然にふれ安全に学べる里山づくりを実践している。適切な管理により、多様な野草や生物の生育生息地の確保、里山景観の維持など長期的な貢献の実績が評価された。	

部門	作品名(場所)	受賞者名	概要	
緑の事業活動部門	住友ゴム白河工場の緑化推進・地域社会貢献活動 (福島県白河市)	住友ゴム工業株式会社 白河工場	1974年操業創業開始の白河工場は「自然との調和」「公害を出さない」「地域との密着」のスローガンのもと、環境保全活動を継続。里山保全活動や育苗した苗木を福島県主催のイベント来場者ならびに近隣の方々に提供するなど、地域貢献の実績が評価された。	
緑のまちづくり部門	官民連携によるグリーンインフラを活用したまちづくり (茨城県守谷市)	守谷市	グリーンインフラの概念を活用したまちづくりを進めるため、総合計画、都市計画マスタープラン、緑の基本計画に反映させた施策を展開。2018年、「もりやグリーンインフラ推進協議会」を設立、官民連携による緑地の保全・整備、普及啓発活動等幅広く展開している。	

◎第一生命財団賞 <1点>

部門	作品名(場所)	受賞者名	概要	
緑の市民協働部門	植草共生の森 (千葉県千葉市)	植草学園大学	2012年より同学園敷地内の放置林の整備を始め、10年を経て里山景観をとり戻した。在学生の学びや寛ぎの場はもとより、地域住民にも親しまれる場となっている。同校卒業生の多くが教職に就くため、自然の大切さを次世代に伝える良い教材となっている。	


◎奨励賞 <2点>

部門	作品名(場所)	受賞者名	概要	
緑の市民協働部門	芝のはらっぱ (東京都港区)	北四国町会 芝のはらっぱ 実行委員会/ 三田の家有限 責任事業組合	都心の住宅街に、誰もが自由に過ごせる交流の庭づくりを行う。町内会による遊休空地活用計画であり、区の地域交流拠点と連携し、住民参加型で計画、造成、日々の運営管理を実施。地域住民発のイベント等への活用も進めている。	
緑のまちづくり部門	かつしか 花いっぱい まちづくり (東京都葛飾区)	葛飾区	平成 25 年度から、区の基本計画内で「花いっぱいのもちづくり」を設定し、区民と協働で推進している。現在は自治町会や商店街、学校等によって、交流・地域活性等を目的に街角の 150 箇所以上の花壇で活動が行われている。	


第 22 回 屋上・壁面緑化技術コンクール 審査結果

全国から、屋上緑化部門 4 点、壁面・特殊緑化部門 6 点、特定テーマ部門 6 点、計 16 点の応募があり、次の団体の受賞を決定しました。



◎国土交通大臣賞 <1点>

部門	作品名(場所)	受賞者名	概要	
壁面・特殊緑化部門	大阪梅田 ツインタワーズ・ サウス (大阪府大阪市)	阪神電気鉄道株式会社 /阪急電鉄株式会社/ 株式会社竹中工務店/ 阪神園芸株式会社/ 株式会社ウイン	本作品は西～北～東面にわたる全長 240m の百貨店外装の壁面緑化である。大小 6 種類、487 基の特殊プランターに四季の移ろいと、多様な生き物を呼び込む樹種を植栽した。実証実験により、維持管理精度の向上、植栽の再配置を行い、歩道植栽から壁面緑化、屋上広場と連続する植栽計画となっている。	


◎環境大臣賞 <1点>


部門	作品名(場所)	受賞者名	概要	
屋上緑化部門	日本医科大学 附属病院 (東京都文京区)	学校法人 日本医科大学/ 大成建設株式会社 一級建築士事務所	本作品は大学附属病院内の人工地盤緑化である。本郷台地の崖線に沿った東西約10mの高低差を活かし、駐車場・駐輪場を地下化し、人々の生活に寄り添う居心地の良い広場、歩行者空間を創出した。根津神社のツツジと呼応したつつじの丘や、多種のサクラにより、四季の変化が楽しめる植栽計画となっている。	

◎日本経済新聞社賞 <2点>

部門	作品名(場所)	受賞者名	概要	
屋上緑化部門	白井屋ホテル (群馬県前橋市)	株式会社 藤本壮介建築 設計事務所	本作品は前橋市の地域活性化の一環として、市のビジョン「めぶく。」を具現化するホテルの屋上緑化である。積層した発泡スチロール上に土壌を吹き付け、地被類や樹木を植栽した。敷地の高低差を解消し、通り抜けできる道空間は、建築と都市とランドスケープが一体となり、まちの一つのシンボルとなっている。	
壁面・特殊緑化部門	戸田建設 筑波技術研究所 グリーンオフィス棟 (茨城県つくば市)	戸田建設株式会社	本作品は研究施設の壁面緑化である。建物4面に、各方位の生育環境にあわせ、生物多様性に配慮した登攀用7種、下垂用3種の在来つる植物を組み合わせ、プランターに植栽している。室内空調負荷の低減効果と、室内外の自然とのつながりを意識したバイオフィリックデザインを取り入れた緑化である。	

◎都市緑化機構会長賞<2点>

部門	作品名(場所)	受賞者名	概要	
屋上緑化部門	札幌市立 駒岡小学校 屋上緑化施設 (北海道札幌市)	札幌市立駒岡小学校/ 札幌市立大学 デザイン学部	本作品は小学校の屋上緑化である。「命を育む北の里山」をコンセプトに掲げ、地域の小動物や植物を屋上に呼び込み、周辺環境と連携する場所を目指してきた。施工から10年が経過し、過密化した樹木類の間伐作業を経て、農作物栽培や学校内の居場所づくり等、新たな利用のあり方を模索している緑化施設である。	

部門	作品名 (製品・技術)	受賞者名	概要	
特定テーマ部門	つちみちパイブ	国立大学法人 奈良女子大学/ 日本興業株式会社	本製品は土と消石灰、天然にがりを混ぜてたたき固めた「三和土(たたき)」の技法を、セメントブロックの製造技術に応用して開発された製品である。従来のインターロッキングブロックと同等の強度と品質を確保しながら、CO2排出量の削減と、廃棄時の土壌還元を可能にした自然環境に配慮した製品である。	

©2027年国際園芸博覧会協会特別賞<1点>

部門	作品名 (製品・技術)	受賞者名	概要	
特定テーマ部門	Biome Survey	株式会社バイオーム	本製品はグリーンインフラの社会実装における課題を解決するスマートフォンアプリである。生物種の同定AIや調査ガイド機能が搭載され、外部の計算システムとAPI連携することで、樹木の炭素貯蔵量や吸収量等も定量化可能になる。緑地の多機能の把握、緑地への関心層の増加など副次的効果が期待できる。	